

鹿児島県トカラ列島口之島の火山地質と火山発達史

Volcanic Geology and History of Kuchinoshima, Tokara Islands, Kagoshima Prefecture, Japan

中尾 武司[1], 古山 勝彦[2]

Takeshi Nakao[1], Katsuhiko Furuyama[2]

[1] 阪市大・理・地, [2] 大阪市大・理・地球

[1] Dept. Geosci., Osaka City Univ, [2] Dept. Geosci., Osaka City Univ.

鹿児島県トカラ列島口之島は、鹿児島市から南南西へ 184km の位置にある、長径約 7km、短径は約 3km の火山島である。口之島火山は西村ほか(1993)によると過去一万年以内に数回噴火しているが、火山地質学的調査は少ない。

口之島の火山発達史は大きく次の5期に区分できる。以下、古いものから順に火山発達史を述べる。

第1期：向岳溶岩ドームの形成。その後フリイ岳溶岩ドームの形成。これらの活動に前後して起こった、グノメ崎・岩屋口・岩屋アグルチネートを形成するような火山活動。

第2期：溶岩流、火砕流、降下ラピリを噴出するウエウラ山火山の活動、そしてウエウラ山カルデラの形成とそれに伴う大勝火砕流の発生。それに前後してタナギ山火山岩類の形成。

第3期：ウエウラ山カルデラ内に横岳火山の形成。その後横岳南西部の山体崩壊による横岳岩なだれの発生と、それに伴う横岳馬蹄形カルデラの形成。

第4期：古前岳溶岩流の噴出、前岳溶岩ドームの形成。

第5期：新前岳溶岩流の噴出、ホトケビラ岳火山の形成、ヒキスエ溶岩流の噴出、戸尻溶岩ドームの形成と、その後の最新の火山活動である燃岳溶岩ドームの形成。